



園だより

平成31年4月号

合志こども園 園長 松岡 貴子

日差しも強くなり始めました。

4月もあっという間に過ぎ、子ども達の生活もリズムあるものとなりつつあります。登園後元気に挨拶をしてくれる姿に、職員も元気を分けてもらっています。「なぜ挨拶をすると気持ちがいいのかな？」と挨拶する意味を子どもたちと考え、引き続き取り組んでまいります。行動の意味を考える事は、色々な活動にも活かされ、探究心にもつながっていきます。お子様と一緒に「どうしてかな？」と会話を楽しんでみてください。子育てがより楽しくなります。

今年もツバメがこども園に戻ってきてくれました。3年目の子育て中のツバメに1歳児さんも「ちゅんちゅん」と毎日観察しては、一緒に成長を楽しみにしています。卵も無事かえり、かわいくちばしが巣のふちに並び親鳥の帰りを待っています。毎年戻ってきてくれるツバメの様子を子ども達と観察していると、【生まれる・大きくなる・巣立つ】という、命のつながりを肌で感じることができます。



葉や花が彩る春、子ども達は花の色どりに心を寄せたり、大好きなダンゴムシやテントウムシを、園庭のあちこちで探しては、「みてみて！ここにいるよ」と歓声を上げています。しかし、欲しいから花をちぎってしまう・・・虫を捕まえるだけで飼育ケースにそのまま・・・。急に動きだす姿にドキッとしてついバン・・・。自然と触れ合う中で、「言葉を交わせないものどう付き合っていくことが大切なのか？」その都度子ども達と考え、話し合うようにしています。自分だったらどう思うか？と立場をかえて考えていくことで、【自分が嫌なことは、虫たちも嫌だと思う】と感じてくれる場面が多いようです。その時感じた事、考えた事を次に生かし、みんなで自然と向き合った活動経験を積み重ねていきます。ご家庭でも、公園へ出かけた時や、近所を散歩する時等お子様と沢山会話し、こどもの興味関心に触れてみてください。優しい気持ちの育ちを感じることが出来ると思います。

色々な姿や特徴を体験を通して学ぶことは、幼児期にとっても必要なことです。「こここうなってるよ」「模様が違うね」「これはどうなっているかな？」【探究心】等時には図鑑を手にして、友だちと生体の不思議さを語り合う姿もあります。自然あふれる身近な環境を生かして、園生活が出来るこども園の環境はかけがえのないものです。五感をつかって沢山経験を重ねられるよう、活動にも取り入れています。その中で、「命を考える」事を子ども達がこれから社会を生き抜く中で、自分の命を大切にすること、相手の心気持ちを大切にすることに繋がっていくと信じています。

